

衆議院選挙情勢 関東都県 (東京新聞記事から)

〈東京都〉風雲急、雨の中駆ける 出馬予定者が始動

2017年9月29日 東京新聞東京版

衆院が解散した二十八日、都内二十五の小選挙区に出馬を予定する人たちは、風雲急を告げる野党再編の動きに神経をとがらせながらも、忙しく街を駆け回った。(神谷円香、川田篤志、増井のぞみ、栗原淳)

5区(一部を除く目黒区、世田谷区東部)の元職、手塚仁雄(よしお)さん(51)は民進公認で復活を期していた。民進が合流する希望の党から公認が受けられるかどうかは分からない。「どういう立場で出るか、私の判断ではなくなっている」と戸惑う。この日は、駅頭の朝立ち、支援者へのあいさつ回り、民進党の会議などをこなし、夕刻に世田谷区の尾山台駅前街頭演説に立った。「脱原発が与党との対立軸になる」と話した。「選挙がないと当選もない」。2区(中央区、文京区、一部を除く台東区、港区東部)から初挑戦する新人の松尾明弘さん(42)は解散を待ち望んでいた。民進公認で出馬予定だった。「できれば(希望に)合流したいが…。どうなるか分からない。「新人なので、街頭に出て知ってもらわなければならない」。ただ、この日のつじ立ちは荒天でやむなく中止した。10区(北東部を除く豊島区、練馬区東部、中野区北部、新宿区の一部)の共産新人、岸良信さん(62)は解散後の昼、池袋駅西口前でマイクを握り「希望の党は自民の補完勢力ではなく何なのか。国会に押し上げ、野党と市民の共闘をさせて」と訴えた。23区(町田市、多摩市南部)の自民前職・小倉将信さん(36)は小田急線町田駅前、雨の中、傘もささずにマイクを握った。「自民党には厳しい風が吹くでしょう。新政党に追い風が吹くでしょう」と覚悟を明かした。同期の若手議員に不祥事が相次ぎ「魔の二回生」と言われることにも触れて「自分を磨き、社会を磨く。『磨の二回生』という自覚で仕事をしてきた」と必死にアピールした。

〈神奈川県〉揺れる各党、焦る選管 県内も実質選挙戦開始

2017年9月29日 東京新聞神奈川版

衆院選の日程は十月十日公示、二十二日投開票と決まった。急転直下で解散となり、公示まで準備の時間が少ない中、県内の主要政党や関係者は目まぐるしく変わる政局に頭を抱える。情勢は混沌としているが、県内でも立候補予定者が選挙区で街頭演説するなど、選挙戦が事実上スタートした。(衆院選取材班)

「本部から何も説明がないし、受け入れられない。ムカッときている」。4区(横浜市栄区、鎌倉・逗子市、葉山町)で出馬する無所属候補が二十七日に自民党に入ったことに、県連の竹内英明幹事長は憤った。4区には既に別の公認候補がおり、県連はこの無所属候補の推薦や入党に難色を示す文書を事前に党本部に送っていた。県連は4、8区(横浜市緑・青葉・都筑区の一部)を重点区に位置付け、組織引き締めを走る。8区は出馬が見込まれていた福田峰之・前内閣府副大臣が離党。代わりに決定した候補は8区に地盤がなく「人員を集中的に投入する」(県連幹部)。安定した選挙戦を期す公明党も揺れる。県本部の谷口和史幹事長は「どんな状況でも自公協力で勝利を目指す」と話す。一方、別の党関係者は「希望の党が現段階で敵か味方か分からない。状況が不透明だ」と困惑する。立候補予定者の離党が相次ぎ、巻き返しを図っていた民進党。党本部は希望の党との合流に活路を見いだすが、現場では方針の練り直しを迫られている。県連の雨笠裕治幹事長は「選対本部の作り方も一から決めていかないと」とため息をつく。二十八日夜に予定されていた県連役員会と選対会議も「現状では議論しようがない」と中止になった。各党を巻き込んで「台風の目」になりそうなのは、希望の党。まだ、公認候補者の正式発表がないが、立候補予定の一人は「解散されてから準備しても間に合わない」と、覚悟を決めて準備を進めている。共産党は、希望の党を軸とした野党結集の動きから取り残された形となった。候補者の一本化に向け、民進と詰めの協議をしていたが、一気に機運はしぼんだ。県委員会の田母神悟委員長は「一方的に野党共闘の合意を破棄した。これまでの話し合いは何だったのか」と憤り、県内の全選挙区での擁立も検討している。県内では社民、自由、幸福実現党なども擁立を目指す。自由党は希望の党との連携も視野に入れている。行政も準備に追われる。横浜市選挙管理委員会はポスター掲示板(四千八百カ所)は発注したが、六百カ所の投票所は確保しきれていない。担当者は「運動会や文化祭の季節。投票所になっている学校の体育館を使えないケースも出そう」と気をもむ。七月の市長選では、二重投票や職員が選挙ポスターを誤ってはがすなどのミスが続発しており、再発防止も大きな課題だ。混乱する県内

政界だが、有権者は冷静だ。横浜市保土ヶ谷区の会社員藤田敬一さん（52）は「解散は自民の論理から考えると当然。希望の党は未知数だが、選挙でがらっと変わるとは思えない」と淡々と語った。

＜千葉県＞民進「合流」県内も激震 支持者の理解に不安も

2017年9月29日 東京新聞千葉版

衆院が二十八日解散し、来月十日公示、二十二日投開票の衆院選に向け、県内でも事実上の選挙戦がスタートした。小池百合子東京都知事が代表を務める「希望の党」に、民進党の事実上の合流が見込まれ、与野党対決の構図が様変わりする。県内の民進党の立候補予定者からは、合流を前向きに受け止める声上がる一方で、政策の違いや選挙準備の遅れを心配する意見が出た。（中山岳、美細津仁志、林容史、村上豊）

■民進

民進党はこれまで、県内で、前職四人、元職三人、新人四人の計十一人が立候補を予定してきた。希望の党への合流について、党県連代表で1区前職の田嶋要さんは「不安もあるがそれ以上の大転換。みんなが腹をくくった」と歓迎。今後は各選挙区で希望の党の支部を作り、自身を含め、民進から出馬予定だった候補者は、希望の党の公認を得て選挙戦に臨む見通しという。8区前職の太田和美さんは「目指すべきは安倍政権を倒し、二大政党制の一翼を担う政党をもう一度作ることだ」と意義を強調。7区新人の石塚貞通さんも「（希望の党の）政策に違和感を感じない」と前向きだ。13区新人の宮川伸さんは「『希望の党に移った方がいい』との多くの支持者から意見をもらった」という。9区前職の奥野総一郎さんは「（両党の代表で）政策をよく話し合って詰めてほしい」と注文。「（支持団体の）連合の人たちが、変わらず支援してくれるかどうか心配。早く公認してくれないと、選挙準備に動けない」と不安の声を漏らした。他方で、6区元職の生方幸夫さんは「突然、『民進でなくなる』ということになって済まされる話なのか」と、解散直前に突如決まった党の方針に疑問を投げかけ、現時点では従うか未定とした。党県連は、二十九日の選挙対策会議で衆院選への対応を決める。田中信行幹事長（県議）は「党籍が不明瞭になり、選挙戦をやりにくい。（合流の経緯などを）地方議員、党員サポーターに理解してもらわないといけない」と話した。

■他党

民進を含め、小選挙区候補者の一本化の可能性を探ってきた共産、自由、社民の各党は、選挙戦略の練り直しを迫られることになった。共産党県委員会の浮揚幸裕委員長は「民進が脱落し、積み重ねてきた四党の合意をほごにされた」と不快感を示した。二十八日に12区に県内唯一の候補を立てると発表した社民党。同党県連の小宮清子代表（県議）は「せつかくの共闘もご破算ですね」と述べた。一方で、日本維新の会は、希望の党との連携の可能性も取り沙汰されている。ただ、2区で出馬予定の新人の藤巻健太さんは「党の決定に従うが、今は（選挙を）やるしかない」と取材に答えた。自由党県連代表で3区で立候補予定の元職の岡島一正さんは「野党再編の話は何とも言えない」と話すにとどめた。自民党県連の河上茂幹事長（県議）は「カリスマ性がある小池代表が県内の応援に入ったら苦戦する選挙区がある」と警戒する。公明党県本部の藤井弘之代表代行（県議）は「政党は、地方議員、支持者がいて重いものだ」と民進党の対応に疑問を投げかけた。

＜埼玉県＞「選挙する理由あるか」 冒頭解散 不安と期待の街の声

2017年9月29日 東京新聞埼玉版

衆院は二十八日、解散された。総選挙は十月十日公示、二十二日に投開票される。小池百合子東京都知事が立ち上げた新党「希望の党」の出現で、選挙戦の構図が固まりきらない中、県内の有権者からは改憲や福祉、北朝鮮への対応などそれぞれの目線で判断し、一票を投じる思いが聞かれた。「最大の焦点は庶民の暮らしすべてに関わる社会保障政策」と力を込めるのは、生活困窮者を支援する所沢市のNPO法人「サマリア」代表で、独立型社会福祉士の黒田和代さん（53）。「福祉を理由に、さまざまな税金が増やされてきたが、現場の待遇や人々の暮らしが改善された実感はない」と指摘。「きちんと実現できる社会保障政策を提示する党と候補者を見極めたい」と話す。秩父市の主婦深田澄子さん（63）は「安倍晋三首相は、消費税の使い道を争点にするなどとしていたが、本当の狙いは憲法九条の改正だ」とみる。核開発やミサイル発射を続ける北朝鮮への対応について「武力ではなく話し合いで解決する方法を考えるべきだ。知らないうちに、日本がどんどん戦争ができる国になるのが怖い」と危惧した。上尾市内の医院に勤める大森祥子（さちこ）さん（48）も「ミサイルが飛んで来たらどうしよう、被害はどれほど出るのか」と不安を募らせる。「有事の際、政府は本当に私たちの生命や財産、安全を守ってくれるのか。戦争を防ぐにはどうしたらいいのか、各党の考えをよく見て、一票を投じたい」と話した。ふじみ野市、震災ボランティア熊谷洋興さん

(75)は「政界再編のニュースがあふれているが、震災復興が埋没してしまうのではないかと心配している。八月に宮城県気仙沼市を訪れた。高さ約十メートルの防潮堤工事が進み「海が見えない町になる」という地元の声も聞いた。本当に必要なものを地元の意向を大切にしながら進めてくれる政治に期待している。杉戸町の小売業野口靖雄さん(63)は「選挙をする理由があるのか分からない」とした上で、争点として強いて挙げるとすれば、景気という。経営環境は厳しく景気回復の実感がなく、老後の生活に不安もある。「景気を何とか良くしてほしい。弱い立場にいる人が最低限の生活ができるような政策に一票を投じたい」と語った。選挙権年齢が十八歳に引き下げられてから、今回が初めての総選挙。埼玉大経済学部二年の小林茉莉加(まりか)さん(19)＝草加市＝は「将来を担う世代に向けた政策を比べて投票したい」と若者の視点を重視する。「女性の社会進出を強化しているが、結婚や出産後に働かず子育てに集中したい人もいるはず。少子化を食い止めるためにも専業主婦を助ける政策を打ち出してほしい」と期待した。

＜茨城県＞希望合流に激震 民進困惑「移籍」意向も

2017年9月29日 東京新聞茨城版

衆院が解散された二十八日、民進党が希望の党への合流を表明し、県政界でも激震が走った。県内の民進関係者の間では「分からないことばかり」と戸惑いが広がった。小選挙区で激突することになる自民党サイドからは「脅威になりうる」と警戒する声も聞かれた。(衆院選取材班)

民進ではすでに前職一人、元職一人、新人三人の計五人が立候補を表明している。五人は、無所属か、希望の党で出馬することを迫られることになりそう。県連の長谷川修平幹事長は「共闘の検討の中に、希望の党はなかった。小池(百合子)さんはよく知らないし、政策も分かっているわけでない」と困惑気味だ。全員当選に向け「有権者の理解を得られるよう説明しなければ」と話す。2区から立候補予定の石津政雄さんは、取材に「希望の党から立候補する方向で調整している」とした。民進との共闘を模索してきた共産党県委員会の田谷武夫委員長は「共闘は諦めてない。『希望』から出る人は論外だが、無所属になる人がいるなら協議したい」と情勢を見守る。一方、自民関係者は「首都に近い選挙区で『風』の影響を受けるかも」と危機感を表す。ただ、県連の田山東湖幹事長は「これまで国政をしっかりと担えた新党があったのか。茨城自民党は動じない。手を抜かず、足元を固める。厳しいことはない」と話す。公明党県本部の井手義弘代表は「はっきりした方向性が見えないものにコメントできない」と話した。

■ 1区

三期目を目指す自民前職の田所嘉徳さんの陣営関係者は、「希望」からの立候補者に神経をとがらせ、「浮動票の掘り起こしに力を入れる」とした。前回、民進で比例復活を果たした前職の福島伸享さんはこの日、筑西市の事務所開きで「新しい党の中で中核を担いたい」と支持者の前であいさつ。希望からの出馬の意向を示した。共産新人の大内久美子さんを擁立した共産幹部は、安保法への考え方の違いなどから「希望と一緒にやることはない」と反発。福島さんが「希望」で出馬すれば、そのまま立候補する考え。無所属の場合には、大内さんの立候補を見送ることに含みを持たせる。幸福実現党の川辺賢一さんは、合流について「看板を変えただけ。(選挙のための)野合と言わざるをえない」と批判した。

■ 6区

厚労省元医系技官の国光文乃さんの陣営の市議は、民進と希望の合流を「強烈なインパクト。一致団結しなければ」と警戒する。国光さんは、当選十二回の自民の丹羽雄哉・元厚生労働相が引退し、地盤を引き継いだ。民進から出馬予定だった新人青山大人(やまと)さんは「戸惑っている。詳しい説明がない中では、いかんともしがたい」と今後、後援会と相談するという。青山氏は丹羽さんの秘書を経て、土浦市の民主県議を二期務めた。共産の古沢喜幸さんの陣営は、「民進と非公式で野党共闘を話し合っていたので驚いた。対応は未定」とした。古沢さんは元土浦市議で、二十五日に別の予定者と代わり出馬となった。

県内小選挙区の立候補予定者
(28日午後1時現在、敬称略)

| | | |
|----|-----------|-------|
| 1区 | 田所 嘉徳(63) | 自前② |
| | 福島 伸享(47) | 民前=比② |
| | 大内久美子(68) | 共新 |
| 2区 | 川辺 賢一(30) | 諸新 |
| | 額賀福志郎(73) | 自前① |
| | 石津 政雄(70) | 民元① |
| 3区 | 星野 文雄(69) | 共新 |
| | 葉梨 康弘(57) | 自前④ |
| | 安部 一真(33) | 民新 |
| 4区 | 林 京(67) | 共新 |
| | 梶山 弘志(61) | 自前⑥ |
| | 堀江 鶴治(75) | 共新 |
| 5区 | 石川 昭政(45) | 自前=比② |
| | 浅野 哲(35) | 民新 |
| | 川崎 篤子(64) | 共新 |
| 6区 | 国光 文乃(38) | 自新 |
| | 青山 大人(38) | 民新 |
| | 古沢 喜幸(71) | 共新 |
| 7区 | 永岡 桂子(63) | 自前=比④ |
| | 石嶋 巖(63) | 共新 |
| | 中村喜四郎(68) | 無前⑬ |

自=自民、民=民進、共=共産、
諸=諸派、無=無所属、丸数字は
当選回数、比は比例復活での当選

<栃木県> 民進3氏 希望から出馬へ 県連、公認申請求める

2017年9月29日 東京新聞栃木版

衆院が解散された二十八日、民進党県連は宇都宮市の県連事務所で緊急幹事会を開き、小池百合子東京都知事が結成を主導した新党「希望の党」への合流という党本部の方針に沿って、衆院選に臨むことを確認した。民進党公認候補として擁立を決めている小選挙区の立候補予定者三人は希望の党の公認候補として出馬する方針で、民進党本部に希望の党への公認申請を求める。（北浜修）

立候補予定の三人は栃木1区の新人渡辺典喜氏、栃木2区の前職で県連代表の福田昭夫氏、栃木4区の新人藤岡隆雄氏。緊急幹事会是非公開で行われた。終了後、松井正一幹事長が記者会見し「希望の党の公認という形だが、民進党の考え方、政策は変わらない。安倍政権をこの選挙で終わらせるという点では、ダイナミックな戦術かもしれない」と、党本部の方針を受け入れた理由を説明した。松井氏によると、幹事会では参加者から、政策面の不一致や、希望の党が結成されたばかりで組織面や財政面などに不安があることを懸念する声が出たが、「前原（誠司）代表を信じてついていく」と、最終的に党本部の方針を受け入れる方向にまとまったという。松井氏は、安全保障や消費税などをめぐる両党の政策の違いについて「不一致は認めない」と認めながらも、「(選挙戦では)民進党の政策を訴えていく」と述べた。県連として候補を擁立できていない栃木3、5区の候補者選定については「コメントは差し控える」と述べるにとどまった。

<群馬県> 「なぜ今 解散」「外交しっかり」

2017年9月29日 東京新聞群馬版

衆議院が二十八日に解散され、県内も総選挙に向けた動きが活発化している。安倍晋三首相の解散の決断を県民はどう受けとめ、総選挙では何をポイントに投票するのか。おおむね安倍首相を支持してきたという太田市で電器店を営む田崎義孝さん（51）と、批判的にみる安中市で子ども食堂運営など子育て支援の活動を展開している、NPO法人副代表理事の今村井子（せいこ）さん（52）に聞いた。

◆北朝鮮問題が最重要 太田・田崎義孝さん

今回の選挙で一番大きいのはやはり北朝鮮問題です。しっかり対応してくれるところに投票したいと思います。解散は、安倍首相が急きょ決めたイメージです。米国のトランプ大統領との水面下の交渉があり、北朝鮮情勢が緊迫する中で、(想定していた時期を)前倒ししなくてはいけないという判断があったのではないかと思います。どちらかと言えば安倍首相を支持しています。消費税率10%への時期先送りや安保関連法制定など自分の目指すところに突き進む行動力を評価しています。ただ、やること全てを支持してはいません。森友・加計学園問題では(事実を)さらけ出し、謝るところは謝る潔さがあるともいいとは思いますが、森友・加計学園問題はうやむやにしていいものではないですが、北朝鮮の問題と比べられるものではありません。今はとりあえず置いておいていいのではないのでしょうか。野党も北朝鮮に対する問題にはまとまる場所はまとまっていく姿勢が必要ではないかと思えます。電器店を営んでいますが、一般のお客さんが相手なので景気回復は実感できていません。むしろ厳しさは増している感じがあります。何とかしてほしいという思いはありますが難しいでしょう。消費税率の引き上げでどうなるのか、注目しています。（聞き手・原田晋也）

◆子育て世代に支援を 安中・今村井子さん

安倍首相は、子育て支援や国民の生命財産を守ると話すが、子ども食堂を訪れる子どもや母親たちの状況を見てみると、市民の生命を守る今そのものが危うい。日々の暮らしの大変さや平和安全に暮らしていきたい市民の思いから乖離（かいり）し支持できません。解散についても正直「なぜ解散総選挙？」って感じ。消費増税の使い道を財政赤字補填（ほてん）から子育て支援に回すから信を問いたい、それで選挙、には納得いかない。国会で十分議論すべきです。タイミングを計算して、今、自民党を勝たせるためにした気がします。子育て世代の大変さは改善されず、私たちが食事提供とともにやっている食料支援を受けるために子ども食堂を訪れる家族も当初から倍に増えました。夏休みで給食が無くなり痩せた子どももいます。貧困を口には出さず隠しながら踏ん張っている人たちがいます。弱っている人を元気にする支援、国民の生命財産を守り生きる力を政治レベルで支えるのが見えにくい。母親たちの声に耳を傾け、助けるための掘り下げた政策を求めます。福島原発事故が収束していない中、原発技術を海外に売ろうとする。長崎平和祈念式典でも、核兵器のない世界の実現と話しながらも市民の声に耳を傾けていない。選挙は、言行不一致の安倍政権に対し、国民がイエスカノーか意思表示する審判の場だと思います。（聞き手・樋口聡）